

ベンチャーや若手経営者を支援

社会を支える
CSRの取り組み

関西を元気にする会

「関西を元気にする会」(大阪市北区)はベンチャー企業の発掘や上場支援を目的に設立され、今年で18年目を迎える。2005年にはNPO法人(特定非営利活動法人)に認定。関西の企業を中心に約100社が加盟し、これまでに23社が上場を果たしている。CSR(企業の社会的責任)を経営理念に掲げる企業が多く、関西経済活性化への礎を担っている。

引き継がれる思い

昨年11月中旬、同会主催の社長会が大阪市内で開かれ、ネットリユース事業を運営する元会員企業の「リネット・ジャングルグループ」(愛知県大府市)の黒田武志社長が「上場までの歩

みと今後の戦略」と題し講演した。同会で02年から5年間活動した黒田社長は、当時次々と上場を果たす先輩企業の薫陶を受け、2年前には自社も東証マザーズに上場。「いつかは自分もと思いつつ、その念願を果たすことができました」と感慨を語った。

社長会は同会の柱となる活動だ。会員企業の社長や役員・幹部を対象に原則月1回開催し、外部講師を交えて経営テーマを語り合う。なかでも上場体験談は株式公開を目指す経営者の大きな刺激にもなっている。このほか、ビジネスプラン発表会や人材育成、組織強化を目的にしたビジネススクールなどを企画。上場企業部会や経営研究部



「関西を元気にする会」主催の社長会。上場体験などの講演が好評だ

会、国際交流部会、関西活性化研究会など8つの部会も運営している。

人をハッピーに

会の設立はIT(情報技術)バブルと呼ばれた2000年。ベンチャー系の若手経営者が関東に進出するなか、人材サービスを手がける「クイック」(大阪市北区)の和納勉社長が「元気な会社をつくれれば、関西が元気になる」と結成を呼びかけ、理事長に就任。同社に事務局を置

「じっくり社長部会」は、世界文化遺産に登録された五箇山合掌造りの古民家で開かれる

＝富山県南砺市

き、入会希望者には理事長自らが面接する。

同社は「関わった人全てをハッピーに」を経営理念に掲げ、社会貢献事業を展開。その1つが1982年に富山県南砺市・五箇山の集落に開設した社員研修所だ。社員の出身地だったことから「社員共通の故郷」と位置づけ、合掌造りの古民家1棟を借り受けた。95年には周辺一帯がユネスコ世界文化遺産に登録された。合掌造りに欠かせない屋根の茅刈りを社員で行い、世界文化遺産の保存活動に協力する。

また、CSR活動の一環で「関西を元気にする会」の活動を支援する。毎年10月には「じっくり社長部会」を研修所で開

催する。会員企業の社長が集い、いろりを囲みながら経営の悩みや本音を語り合う場になっている。

同会は近年、会員の若手経営者へのサポートにも力を注ぐ。昨年1月、神戸大学の元学生らが設立した「日本農業株式会社」(大阪府箕面市)も会員企業だ。農業人口が減少するなか、農業を使わない100%コールドプレスジュースを中心にした6次産業化に取り組んでおり、将来の上場を視野に支援を続けている。

和納理事長は「関西にはユニークなベンチャー企業を生み出してきた地盤があり、世界に目を向けた志の高い企業を育てたい」と話している。